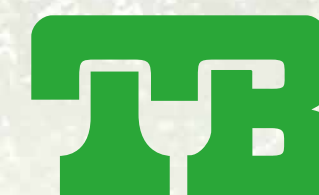




<http://www.t-b-i.co.jp>

リサイクルで地球環境の未来を創る



CSR 報告書

2015

TOKYO BOARD INDUSTRIES, CO., LTD.

編集方針	目次
当社は「リサイクリングで地球環境の未来を創る」を経営理念に掲げ、木材業界、廃棄物処理業界の発展を通し、地球環境の改善活動に取り組んでいます。	■ 会社沿革 4
この報告書は大勢のステークホルダーの皆様との関係を深め、企業としての社会的責任を十分に果たしていきたいという思いを込め、経営理念の実現に向けた取り組みを皆様に知って頂きたく、これまでの活動をCSR報告書にまとめました。	■ TOP Message 5
当社の活動をご理解頂くため、是非、お読み下さい。	■ 事業紹介 10
	▪ パーティクルボード製造事業
	▪ 合板製造事業
	▪ 産業廃棄物処理事業
	▪ 一般廃棄物処理事業
	■ 東京ボード工業の経営への取り組み 11
	▪ コーポレートガバナンス
	▪ 内部統制
	▪ リスクマネジメント
	▪ 社員教育
	▪ 安全・衛生
	▪ JIS A 5908・ISO9001
	▪ 産廃エキスパート
	■ 東京ボード工業の環境への取り組み 14
	▪ ISO14001
	▪ PEFC
	▪ EPD
	▪ CO ₂ マイナスプロジェクト
	▪ LED・エコカー
	■ 東京ボード工業の社会への取り組み 21
	▪ 東日本大震災
	▪ 法人の森
	▪ ゴミゼロ活動
	▪ 環境展
	■ 会社概要・許認可等一覧 23

報告対象期間

2015年4月～2016年3月
(内容補助および速報として、対象期間外の情報を一部含んでいます。)

報告書対象組織

東京ボード工業株式会社
(グループ会社は含まれていません。)

発行日

2016年8月

発行部署

経営管理部

本報告書の問い合わせ先

経営管理部
電話：03-3522-4138
FAX：03-3522-4137
Mail：t-b-i@t-b-i.co.jp

免責事項

本レポートに掲載しているCSR情報は、記述した時点で入手できた情報に基づいて作成しています。なお、本レポートはCSR情報のダイジェストとして様々な取組の中でも特に重要な課題への取組の状況を報告させていただいております。

東京ボード工業株式会社 沿革

昭和21年	5月	千住ベニヤ工業有限会社として単板購入による合板製造を開始 (資本金199,000円 住所:東京都足立区梅田6-9-39)
昭和22年	5月	山陰ベニヤ工業株式会社(存続会社:後の大日本ベニヤ工業株式会社)創業。
昭和23年	1月	商号を千住ベニヤ工業株式会社と改称
昭和24年	6月	ロータリーレース新設により原木購入による合板一貫工場となる
昭和36年	1月	千住プライウッド株式会社に社名変更
	7月	埼玉県八潮市に工場を新設し建材の生産及び販売を開始
昭和38年	2月	埼玉県八潮工場にて合板の生産を開始
昭和44年	10月	荒川工場を分離独立させ荒川プライウッド株式会社として発足
昭和45年	7月	埼玉工場内の建材部門を分離移転し東京アイディアルウッド株式会社として独立させる
昭和50年	4月	東京都足立区梅田6-9-38 足立工場を閉鎖し埼玉工場に吸収
昭和52年	5月	大日本ベニヤ工業㈱(存続会社)と太洋プライウッド㈱が合併し江東プライウッド㈱となる。
昭和58年	11月	江東プライウッド株式会社、千住プライウッド株式会社、荒川プライウッド株式会社、東京アイディアルウッド株式会社の4社が合併 江東プライウッド株式会社が存続会社となる 資本金 2億2,100万円
	12月	東京ボード工業株式会社に商号変更 「東京都環境影響評価技術指針」に従い、東京都民間第一号の環境影響評価(アセスメント)を行い、 東京都江東区新木場2丁目にパーティクルボード製造工場建設に着手
昭和59年	3月	東京都江東区新木場2丁目にパーティクルボード製造工場完成生産開始。 荒川工場閉鎖
平成2年	8月	JIS表示許可を取得 パーティクルボード JIS5908 390031
平成3年	2月	パーティクルボード製造の主原料を合板工場廃材、製材工場廃材依存を脱却し、首都圏の建築工事現場等から発生する木質系廃棄物へと転換を図りリサイクル部設置
	6月	産業廃棄物処理業許可取得(産廃 第05896号)を新木場パーティクルボード製造工場内にて取得
	10月	一般廃棄物処理業許可取得(一廃 第380号)を新木場パーティクルボード製造工場内にて取得
平成4年	10月	第一回リサイクル推進事業功労表彰事業 農林水産大臣賞受賞
平成5年	11月	環境基本法が制定される
平成6年	1月	パーティクルボード工場のホットプレス熱盤を3段に増設しリサイクル部門及び製造部門の強化を行う
	3月	宮城県石巻市に植林材針葉樹専門の単板工場(石巻工場)を新設
平成8年	10月	石巻工場1ライン増設月産50万枚体制へ
平成9年	4月	ティー・ビー・ロジスティックス有限会社(現 株式会社)を設立し、製品配送の帰り便での廃材回収を開始
平成10年	10月	地球温暖化対策推進法が設定される
平成11年	8月	パーティクルボード工場を新木場リサイクリング工場に名称変更
	8月	株式会社竹中工務店東京本店様、戸田建設株式会社東京支店様と初の「木質資源リサイクル推進協定書」を締結し建設現場でのゼロミッションを構築し資源循環型社会構築に共同で乗り出す
	10月	新木場リサイクリング工場ISO14001取得(JE032A)
	11月	埼玉工場を子会社有有限会社ボード加工(のち株式会社)へ全面的に集約し加工部門を完全分社化
	12月	清水建設株式会社首都圏事業本部様「木質資源リサイクル推進協定書」を締結
平成12年	1月	新木場リサイクリング工場のホットプレスを4段に増設
	6月	循環型社会形成推進基本法が制定される
	9月	株式会社間組東京支店様と「木質資源リサイクル推進協定書」を締結
	11月	株式会社長谷工コーポレーション様と「木質資源リサイクル推進協定書」を締結
		石巻工場にてISO9002取得(現ISO9001)
	12月	高松建設株式会社様と「木質資源リサイクル推進協定書」を締結
平成13年	5月	住友林業株式会社様、勝村建設株式会社東京支店様と「木質資源リサイクル推進協定書」を締結
平成14年	1月	新木場リサイクリング工場ISO9001(2000S)取得(JQ0819A)
平成16年	2月	横浜エコロジー株式会社設立(早川海陸輸送㈱とティー・ビー・ロジスティックス㈱に:神奈川県横浜市幸浦)
	4月	安藤建設株式会社各事業部・支店様と「木質資源リサイクル推進に関する協定書」を締結
	5月	タイプⅢ環境ラベル、EPD(環境製品宣言)認証取得 PSR:WPB2003:8(EP005A)
平成17年	3月	鹿島建設株式会社東京建築支店様と「木質資源リサイクル推進協定書」を締結
		前田建設工業株式会社各支店様と「木質資源リサイクル推進協定書」を締結
		東急建設株式会社首都圏本部様と「木質資源リサイクル推進を目的とした協定書」を締結
	7月	横浜エコロジー株式会社幸浦チップ工場稼動
平成18年	12月	TB関西物流株式会社を設立(奈良県奈良市)
平成19年	6月	本社を東京都文京区本郷1-25-5から東京都江東区木場2-17-12に移す
平成20年	3月	石巻単板工場譲渡
	9月	本社を東京都江東区新木場2-11-1に移す。新JIS認証取得 JIS A 5908:2003 認証番号TC 03 08 225
	10月	株式会社マルヒ(隣接する合板工場)を子会社し合板製造を最開,新木場に約1万坪の敷地となる
平成21年	6月	子会社株式会社ボード加工を吸収合併
平成22年	3月	子会社株式会社マルヒを吸収合併
	10月	本社にてISO14001取得
	11月	東京都の支援によりBCPを導入構築
	12月	「CO ₂ マイナスプロジェクト」生活部門全国産業廃棄物連合会青年部協議会会長賞受賞 ティー・ビー・ロジスティックス㈱は「CO ₂ マイナスプロジェクト」共同削減部門 全国産業廃棄物連合会会長賞受賞
	12月	「産廃エキスパート」認定取得 認定番号1-10-C0062
平成23年	6月	「PEFCリサイクル」認証取得 認証番号CEF1103
平成24年	10月	循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰受賞
平成26年	3月	新木場本社ビルを購入
	12月	東京証券取引所市場第二部へ新規上場

TOP Message

当社の存在価値と経営理念

人は、誰しもが自分自身の存在価値を問うときがあります。特に東日本大震災のような大惨事が起きた後は特に考えさせられるのではないのでしょうか。

私自身もそうでした、そのような時は、いつも「自分とは何なのか? 何の為に生まれてきて何のために存在するのか? 自分の存在価値は何なのか?」考えてしまいます。仮に自分自身で答えを見出しても、それが本当に正しいのかどうか誰にもわかりません。そして、不安を完全には払拭することはなかなかできません。

大震災の直後は、関西より当グループのTB関西物流株式会社にて物資を被災地に運び、二週間後には私も子会社ティービーロジスティックス株式会社の役員とともに、自ら運転し物資を三陸被災地まで運びました。そこで見た光景は生涯忘れることはできないでしょう。言葉では例え様の無い無残な光景に、自分の無力さ・世の中の無慈悲を見、ただ茫然とするしかありませんでした。漠然と「私にはいったい何ができるのだろうか?」とただただ自問するだけでした。

物資の届け先にも偶然にも以前仕事でよくご一緒した県職員の方がいらっしゃり、避難施設を案内してくださいました。その日はやっと仮設のお風呂ができ、皆さん少し元気を取り戻しつつありましたが、まだ施設の階段の踊り場等を寝床にしている方々も大勢いらっしゃいました。まだまだ普通の生活にはほど遠い状況でしたが、体育館内には日本全国から送られてきた物資が沢山ありました。

一人ひとりの力は微々たるものかもしれませんが、日本だけでなく世界の人々の沢山の思いが一つになった時、物資だけではなく、そこにこめられた支援・救済の気持ちが大きな力になり、被災者の方々にはきっと大きな活きる力となったのではないのでしょうか?

私は自分自身に明確な答えが出せなくても、今、目の前にある「やるべきこと」を生き活きとこなすことが人間の存在価値を高めて行くのだと、事の大きさではなく、今おかれている環境の中で自分自身に与えられている「やるべきこと」をしっかりとこなしていくこと、たとえそれがどんなに小さな事でも行うことに意味があり、我々の存在理由のひとつなのだと再認識させられました。

東京ボードグループ(以下TBG)では、当社および当社社員のできることのスタートラインとして、社内にて1円からの募金活動を直ぐに開始しました(P21参照)。そして会社の利益からも拠出し、2011年度は、被災した関係会社の社員一人一人に支援寄付を実施し、2012年度は関係会社所在市の震災孤児等に寄付をさせていただきました。この取り組みは、震災前後に誕生したお子様が、高校を卒業する18年間毎年支援し続けることを目標としております。そして、当社の所属する東京産業廃棄物協会および首都圏廃棄物処理事業協同組合の皆様にもお話したところ、たいへん積極的にご協力していただきました。

当社の存在理由は、経営理念に凝縮されております。弊社の経営理念「リサイクリングで地球環境の未来を創る」とは、温暖化の進んだ現在の地球環境を、リサイクリングを行うことで改善し、子孫代々未来永劫に地球上に快適に暮らせる環境を創造することです。その「リサイクリング」とは資源循環の輪

(リング)と現在進行形の～INGを併せた意味であり造語です。これは当社の事業そのものであり、当社の企業活動そのものが地球温暖化改善事業になります。これが当社の社会貢献であり存在理由・存在価値です。

そもそも木材のカスケード型利用(多段階利用)で考えますと、当社の事業はサーマルリサイクルの一段階前に位置しております。植林された一本の樹木はCO₂を吸収して光合成をし、成長します。成長した樹木は伐採し、製材や合板等の一次製品に加工することで住宅部材等に活用され、約30年で解体されます。解体後の処理方法として、焼却処分やサーマルリサイクルがありますが、それでは折角自然の力で固定された炭素をCO₂としてまた大気中に放出してしまうことになります。

当社では、木材として使用可能な廃木材をお持ちいただければ、『廃木材100%リサイクルパーティクルボード「EVAボード」(以下「EVAボード」とする)』として再生し、また住宅部材として更に30年程使用することが可能です。また、使用後の「EVAボード」もお持ちいただくことにより、何度も再生することが可能です。その間最初に伐採した時に植林された樹木は大気中からCO₂を吸収し成長し続けます。

この繰り返しによる資源循環の輪が回れば回るほど、一本の樹木が吸収した炭素を固定する期間が長くなり、この間に植林された樹木がまた成長しCO₂を吸収していくことによって、地球上に存在する樹木に固定化された炭素の絶対量を増やし続ける。この事業展開こそが地球環境・温暖化改善事業になるということであり、これが当社の社会貢献であると考えております。(P14参照)

当社にとってのISO14001の継続は、炭素を固定化し続ける事業活動(リサイクリング)で、使用するエネルギーの消費による環境負荷を炭素の固定量以下にする活動となります。また併せて、製品開発や「EVAボード」の用途開発の輪を広げることも、炭素固定量の増大に繋がると考えます。

リサイクリングは、枯渇資源の有効利用と環境負荷の低減がセットになっていないと価値が無いと考えています。

この当社事業活動の意味をご理解の上、「EVAボード」をお使い頂けるだけで、お客様は地球環境改善事業に貢献しているということになります。そして更に炭素固定量を増やしていくには、少しでも多くのお客様に当事業をご理解いただき、お客様と協力業者とも手を取り合ってこの資源循環の輪を長く太く回し続けることに全力で取り組まなくてはなりません。これを全うし、お客様の環境経営をサポートすることが、お客様と当社の社会貢献を増大し、存在価値を高め、そして社員一人ひとりの存在価値を高めることになるのです。

戦後、日本国のため、我々の世代の為に、寝食を忘れ経済復興に専念し、今の日本の礎となった世代の方々が残した課題が「環境問題」であると思います。諸先輩方が創り上げたこの経済(生活)環境に感謝し、与えられた課題である環境問題の解決を進め、次の世代にバトンタッチするのが、我々世代の責任であると考えております。

このリサイクリング事業を追求することが、当社の経営理念であり、当社の存在価値、社員の存在価値であります。次世代の当社の経営者もこれを追求していくこととなるでしょう。

いつの日か当社の経営理念である「リサイクリングで地球環境の未来を創る」活動が、どの企業でも一般家庭でも、全ての廃棄物を資源化することが当たり前のことになり、全ての生物がいきいきと存在できる地球環境が循環型社会により完成されたとき、当社の存在価値はなくなるか、もしくは別のかたち

のものとなるでしょう。その日が来るまでこの意識を継続し持続して、発展できる企業体質を維持してまいり所存です。

企業体質への取り組み

「リサイクリングで地球環境の未来を創る」この経営理念を個々の社員の心に浸透させ継続させ、そして持続して発展できる企業体質構築と維持のために、過去5年間当社では、「教育改革・意識改革・組織改革」を基軸に、人材育成・強化の仕組み作りに時間をかけてまいりました。現在ようやく大枠ができあがり、細かい点に修正を加えながら、より現実に即した教育システムの構築を進めてきております。

その一例として、当社に入社した社員が、与えられた仕事は勿論のこと、自分自身の意識改革とレベル向上のため、自ら積極的に勉学に励み経験値を高めていくために、ここ3年間は毎年スローガンを掲げ、1年毎に意識付けを行ってまいりました。

2011年度のスローガンは「感謝と責任」を掲げました。

目標を達成するためには、どんな障害があっても決してあきらめない不撓不屈の精神や、不枯渇の情熱・熱意が必要になります。その止めどなく溢れる情熱・熱意はどこから湧いてくるのか? どうすればそれを持続できるのか? ということ学ぶことが必要となります。それは、この時代を切り開いてきた諸先輩・ご両親ご先祖様に対し、今この環境に生きていること生かされていることに心から「感謝」し、且つ、更によりよい地球環境にして次の世代の子供・孫・子孫代々に渡るまで、未来永劫に引き継ぎ続けられる様に、一步でも前進し、引き継いでいくことが我々世代の「責任」であり、この「感謝と責任」を一瞬にして心の中で感じられる様にすることが重要であること。そして、「リサイクリングで地球環境の未来を創る」この仕事をどんなことがあっても進めてゆける情熱と熱意を、止めどなく心の底から溢れさせることができるよう「感謝と責任」を説明しました。

2012年度のスローガンは、「change! challenge! chance make! (make a chance) : (以下3C)」でした。ますます厳しくなる経済環境・地球環境の中で我々はどう対応していくべきかが課題となりました。

それは、今から20年以上前に、関連会社や取引先から「無理だ!」と散々いわれながらも廃木材を原料としたパーティクルボードを製造することに果敢にチャレンジし、しっかりとした理念をもってこれを成し遂げた現会長初め、諸先輩方のスピリットを企業として持続させること。そして、絶えず変化する経営環境に対応していくため、まずは自分自身を変え(change!)、不可能を可能にする情熱・熱意と「感謝と責任」をもって果敢に挑戦し(challenge!)、地球環境・経済環境改善に対応していく機会を創り出すこと(chance make)です。

この様な組織を構築するためには、社員一人ひとりの意識改革がなければ、成し得ません。よって社員が自らを律し、自分自身を改革成長させていく意識付けと行動を持続させることが重要であると訴えました。そして現状維持は退化であり、即脱落であることを説明いたしました。

2013年度のスローガンは「備える!」です。「感謝と責任」を胸に、「3C」で自分を変え、そして次にくる環境に「備える!」ということです。リスクマネジメントの一つとしても考えられます。当たり前の事ですが、将来の起こりえる様々な状況に対し、その環境が来る前にある程度予測して備えることが大事であり、これが企業の安定的且つ持続的発展を可能にし、当社の経営理念を持続していく重要なポイント

となります。

この三つのスローガンがセットになり、社員一人ひとりが自ら意識付けをし、それが次の世代の社員にも引き継がれていけば、経営理念に基づく精神は永遠に伝承され続けることになると思います。これができるればTBGは、いかなる状況になっても生き残り、発展する社会貢献企業に成り得ると思っております。これが牽いては企業の存在価値を上げ、社員一人ひとりの人間としての存在価値を上げていくことになるはずで

TBGの考えるCSR

第一に、企業の行う事業活動そのものが社会貢献に該当しなければならないと考えております。利益を最大化することがTBGの目的ではありません。また、企業は利益追求の組織とも考えておりません。企業の利益は社会貢献の度合いであると考えております。但し利益を稼ぐ、また大きく儲けることも悪いことであると思っております。TBGでは、利益は目的達成のためのエネルギー・栄養分と考えております。

人体で例えれば、利益は血液と同じような物と考えております。誰も血液そのものの為に生活を送っているわけではないと思いますが、血液が無ければ、また澱んでしまえば人間は死んでしまいます。これと同じように、お金がなくなれば文字通り資金ショートし企業は倒産、目的達成どころではなくなります。不法に稼いだお金（澱んだ血液）でも同様です。

もう一つの問題は利益の使い方であると考えます。株主の皆様、取引先の皆様、また一生懸命に働いてくれる社員、そしてTBGが社会により貢献することができるように投資を行わなければなりません。いわゆるステークホルダーの皆様、文字通り適切な配分で再投資しなければならないと思っております。

また、当社事業活動の基盤強化と更なる社会貢献の為、人材育成強化は勿論、BCP等リスクマネジメントと内部統制システムの構築・コーポレートガバナンスの強化・コンプライアンスの推進に積極的に取り組んでおります。

学生の皆さんもいずれ学校を卒業し、社会人となり働き、お給料をいただきます。この意味合いも明確にしなければなりません。「なぜ労働の対価としてお金をいただけるのか？」もちろんそうでなければ生活はしていきませんが、明確に正しい答えはあるのでしょうか？

「なぜ働くのか？」生活のためだけではないはずで

す。「私が勤めている企業が利益をだしているの

で、給料が貰えている。しかし、企業は何故利益を出せるのか？」それは勿論、売上ー費用であることはわかっていますが、そんなことではありません。

その企業の活動に対し、お金を払ってサービス等を購入して

くださるお客様がいらっしゃるからであり、そこに企業の社会的存在価値が生まれると同時に、事業が成立しているからです。これを追求していくことで企業としての存在価値が上がり、責任が増してゆき、我々が努力すれば企業の存在価値と同時に我々の存在価値も上がるわけ

当社にとって、一番の社会貢献は事業そのもの、「リサイクル

リングで地球環境の未来を創る」であり環境改善事業です。環境問題には地域差は多々ありますが、人種も性別も国籍も関係ありません、誰しものが総論では同意できるものだと思うのです。

最後に

TBGに所属する全ての社員は、それぞれの会社において各々役割があります。

その全ての社員は、日夜どんな障害があっても将来に「備える！」為に、「感謝と責任」を心に、自らを変革し（チェンジ）、盛んに挑戦し（チャレンジ）、環境改善の機会を作り出し（チャンスメイク）、「リサイクルリングで地球環境の未来を創る」正に環境戦士なのであります。

「木々に永遠の命を与えたい」。「地球の赤信号を青信号に変えたい」。「地球の幸せは、私たちの幸せ」。その為に、今も我々環境戦士は自分自身と戦っております。

「リサイクルリングで地球環境の未来を創る」これが私たち東京ボードグループの願いです。



事業紹介

パーティクルボード製造事業・合板製造事業・産業廃棄物処理事業・一般廃棄物処理事業

当社は平成3年に産業廃棄物および一般廃棄物処理業の許可を取得し、関東近郊から発生するアーバンフォレスト（街の中などにある、役目を終え廃棄される木材。以下「廃木材」という）に着目し、日本で最初に廃木材を原料に使用したパーティクルボードメーカーです。

現在では、当社の啓発活動等により、廃木材の原料化はパーティクルボード業界のスタンダードになっています。

経営理念である「リサイクリングで地球環境の未来を創る」は事業活動そのものです。

当社の事業活動は、木材のカスケード利用に当てはめると、サーマルリサイクルの一段階前のマテリアルリサイクルに位置しています。一本の樹木が大気中より二酸化炭素を吸収して成長する。成長が止まったら伐採して製材や合板等に加工し住宅部材等に使う、20～30年後に解体され、当社にてパーティクルボードにマテリアルリサイクルし、また住宅部材等に使う。

この循環により、炭素を固定した「木材」として利用することができ、二酸化炭素の放出を抑え、半永久的に炭素を固定する事が可能です。その間に植林等された樹木が二酸化炭素を吸収していくことにより、固定化した炭素の絶対量を増やし続けていきます。

「リサイクリング」とは資源循環の輪「～ING（現在進行形）」を通じて炭素の固定化により、環境の改善に微力ながら貢献し続ける意味であり、当社の事業自体が地球温暖化の改善事業となります。そして、住み良い地球環境を築いていただいた先祖に感謝し、子孫代々未来永劫に地球上で快適に暮らすことのできる、「地球環境の未来を創る」ことが当社の責任です。



工場写真

東京ボード工業のマテリアルリサイクル

東京ボード工業は木材のマテリアルリサイクルを実践している企業です。私達が生産するパーティクルボードは100%木質廃棄物を原材料としています。

環境負荷の影響を考慮し、他段階利用（カスケード型リサイクル）の考え方により、マテリアルリサイクルを最優先に行っています。

東京ボード工業の経営への取り組み

コーポレートガバナンス

当社は、業務に精通した取締役を機能別に設置し、責任の所在を明確にし、経営判断を行っています。また、監査役会を設置し、企業統治体制をとっています。平成21年度より社外監査役を選任し、経営の透明性を推進しています。また、さらなる強化のため、会計監査人による監査を4半期毎に実施しています。

内部統制

当社では、平成23年9月に「内部統制システムの基本方針」を取締役会で承認されました。

急速な経済変化や企業をとりまくリスクに対応し、業務の有効性と効率性の向上に向かって取り組んでいます。

リスクマネジメント

当社は、企業をとりまくリスクを洗い出し、分析し、対策をとることで企業経営の強化に取り組んでいます。影響の大きなリスクに対し、環境要因を抽出、対策を実施し未然防止し、また、問題が発生した場合の損失を想定した対策を立てています。さらに、リスクマネジメントの一環として、地震に対しての事業継続計画（BCP）を平成22年11月に策定しました。パーティクルボードは建材として多く使用されており、当社の製品を早期供給することで早期復興へ繋がるものと考えております。また、復興へ向けての建築廃木材や新木場地区から排出される木材を受け入れることでサプライチェーンの早期事業再開に協力していきます。



BCP研修

社員教育

当社は、年度ごとに年間計画を定め、適宜見直しを行い、階層別、目的別、選抜教育を行っています。また、毎月第二土曜日、各部署にまたがる教育内容や一般社員向け研修、管理者対象研修等、一度に多くの人員が受講できるように社外の講師を招き15～30名の一斉研修を実施しています。



社外講師による研修

安全・衛生

平成15年4月、当社のリサイクリング工場入口に安全塔を建立しました。

過去の労働災害を風化させることなく、そして労働災害の発生をゼロにすべく、各作業のリスクを洗い出し、通減策を取ることで労働災害の未然防止に取り組んでいます。



安全塔

JIS A 5908、ISO9001

当社は平成2年8月にパーティクルボードの日本工業規格であるJIS A 5908の適合性認証を受けています。また、平成14年1月にはリサイクリング工場にてISO9001：2000の認証を取得しています。

パーティクルボードは木材をチップ化し、これを接着剤で再結合させた木質ボードです。当社では、原料となる木材に廃木材を使用しています。廃木材が破碎され、チップ化された後、精密な選別ラインを通過したチップのみが原料となり、JIS適合性工場、ISO9001 認証工場の厳しい品質管理の元、パーティクルボードへ製品化されています。



ISO9001登録証

産廃エキスパート

産廃エキスパートとは、産業廃棄物処理事業者の申請により、東京都が指定した第三者機関（公益財団法人 東京都環境公社）が、

- (1) 廃棄物処理・資源化に係る高い順法性（法令順守）
- (2) 事業運営の安定的及び信頼性
- (3) 高水準の適正処理・資源化の取組みや環境貢献活動等の先進的な取組

による評価基準にて認定する制度です。

当社では、パーティクルボードの原料となる木材のマテリアルリサイクルによる再資源化、環境に与える負荷の少ない取組み、健全な企業経営等を評価され、平成22年12月に産廃エキスパートの認定を受けています。



産廃エキスパート認定証

東京ボード工業の環境への取り組み

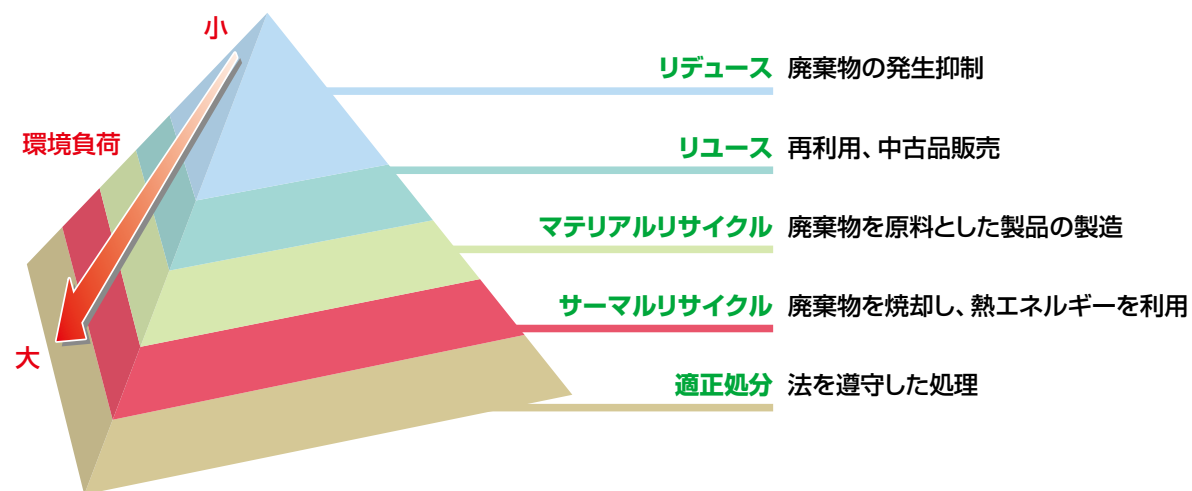
廃木材を回収し、パーティクルボードにマテリアルリサイクルすることで、木々の成長段階で吸収したC（炭素）を固定しています。また、役目を終えたパーティクルボードは再度当社へ持ち込まれることでパーティクルボードに生まれ変わります。このスパイラルにより木々に永遠の命をあたえ、C（炭素）を固定することができます。

つまり、当社の事業活動そのものが地球温暖化の改善に貢献しています。

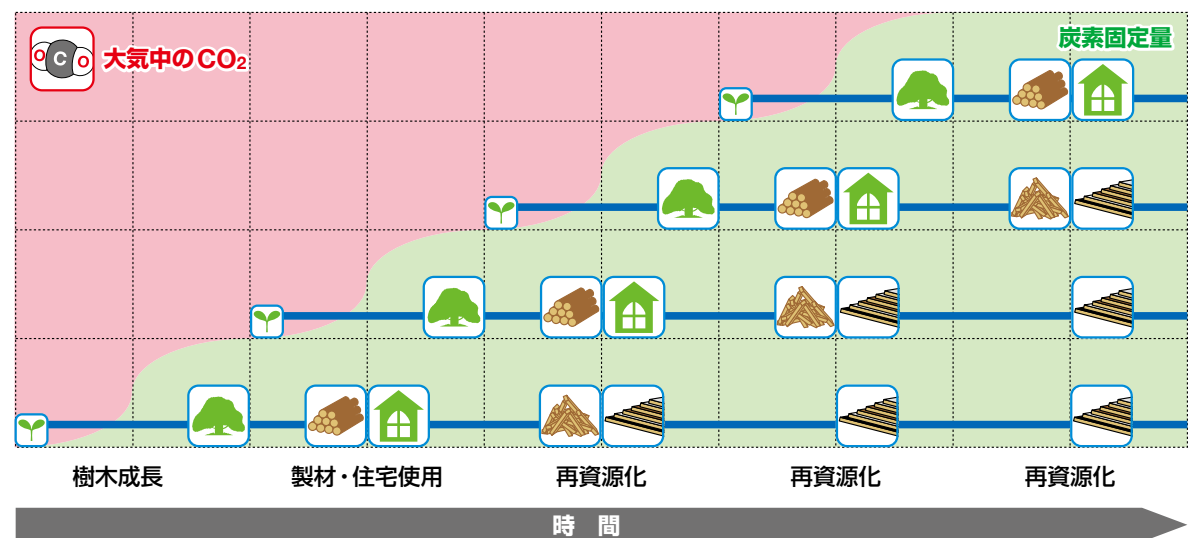
しかしながら、サーマルリサイクルでは、木々が長い年月をかけて吸収したCO₂を焼却時に一瞬で放出してしまいます。

もはやリサイクルは当たり前の時代ですが、これからは「リサイクルの質」が問われる時代です。

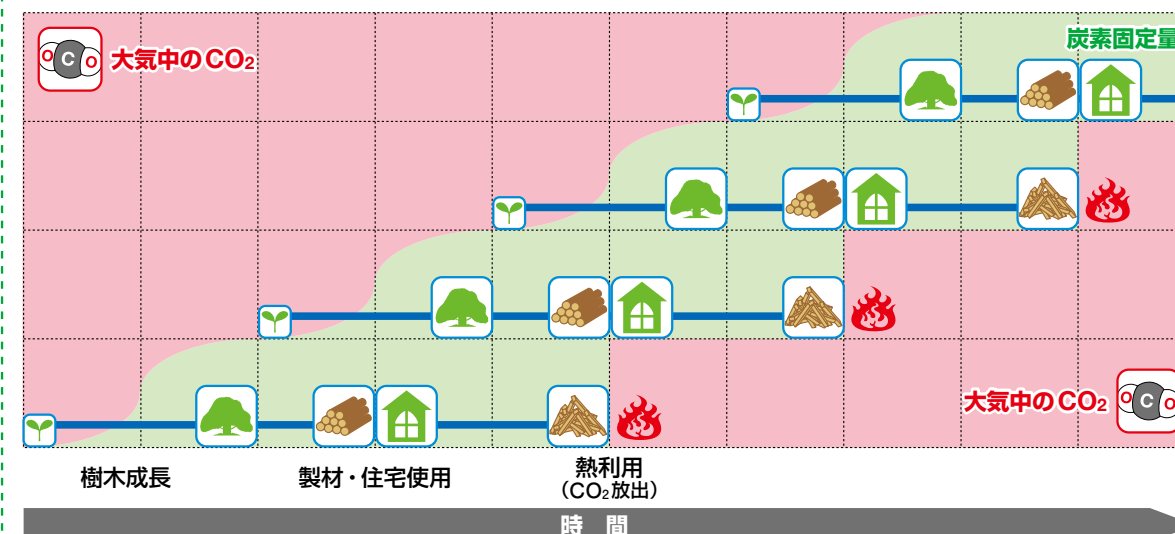
■マテリアルリサイクル・サーマルリサイクルにおけるCO₂量の面積比



■マテリアルリサイクル



■サーマルリサイクル



ISO14001

平成11年10月、環境マネジメントシステム認証を、国内PBメーカーで最初に取得しました。また、平成22年10月には本社での認証を取得しています。

活動内容は多岐にわたりますが、解りやすい項目として、LED照明・電気の見える化システムの導入等があります。



環境方針

ー環境理念

東京ボード工業株式会社は、「リサイクルで地球環境の未来を創る」という環境理念のもと環境保全に貢献すべく、地域社会で行動します。

ー環境方針

当工場は、通常焼却・埋立処分されてしまう廃棄木材をリサイクル資源とし、全量原料に使用したパーティクルボードを製造しています。これは二酸化炭素の大气への再放出を停止させることにより環境負荷を低減させ、地球のミドリと環境を大切にしたい生産活動です。つまり、当工場の活動に比例して地球及び国土の自然環境に優しさを与えています。

さらに接着剤製造活動をも取り込み、環境理念を踏まえ、環境汚染の予防を推進し、マネジメントシステムの継続的な改善を図る事により、自然・社会・生活環境の維持・改善に積極的に貢献し、地球環境の改善に寄与する企業活動に、社員一人一人が生きがいをもって取り組むことができるよう、職場環境を整え、その社員を支える家族と共に成長する企業を目指していきます。

1. 資源枯渇と地球温暖化を防止するために、木材用接着剤、電気使用量及び用度品の削減を図ります。
2. 豊かな海を維持するために、排水の管理を行います。
3. 清潔で快適な作業環境を維持するため、臭気の放出を抑えます。
4. 当工場の製品及びその作業に適用される環境関連の法律、規制等を順守し、必要に応じて自主基準を定めます。
5. 環境目的及び目標は、定期的に見直しを行います。
6. この環境方針は、全従業員に対し周知出来るよう教育と啓蒙活動を行います。
7. この環境方針は、一般に公表します。

平成 25 年 8 月 1 日

東京ボード工業株式会社

代表取締役社長 **井上 弘之**

● 主な著しい環境側面の電力・木材用接着剤の原単位推移(平成23年度を100%として)

	23年度	24年度	25年度
電力	100.0%	93.4%	96.4%
木材用接着剤	100.0%	102.2%	100.9%

● LED照明変更による効果

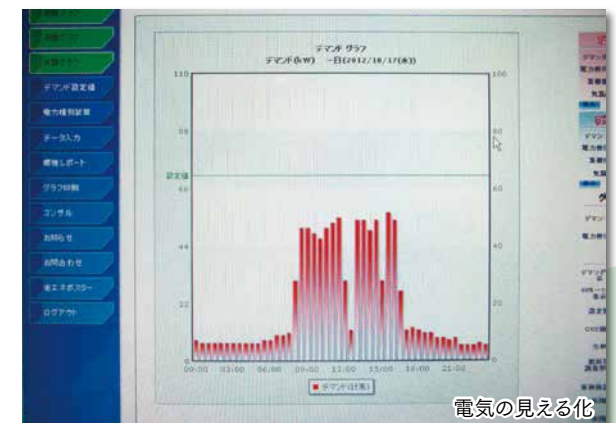
設置場所	水銀灯灯数	定格(W)	LED灯灯数	定格(W)	年間削減電力(kWh)
工場棟内	12	4,800	→ 12	960	32,613
工場通路	5	4,200	→ 11	594	

※年間削減電力は12時間稼働で算出しています。なお、CO₂削減量に換算すると、12.4tです。



● 電気の見える化

本社の電力使用量を適切に削減するため、デマンド閲覧システムを導入しました。ピークデマンドの推移を把握することで、電力使用量を効果的に削減しています。システム導入により、ピーク電力使用量20kWh削減でき、電力料金の削減にも繋がっています。



PEFC

森林認証プログラムの1つであり、世界最大の森林認証制度であるPEFC (Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes) の認証を平成23年6月にパーティクルボードおよび木材チップにて取得しました。また、平成24年4月には単板張りパーティクルボードにて取得しています。なお、当社では、70%以上のリサイクル材を原料として使用している場合に使うことのできる「PEFC」の認証となり、平成28年3月現在、パーティクルボードのリサイクル材含有率は99%以上です。



EPD

EPDとは、Environmental Product Declarations (環境製品宣言) の略で、製品の生涯(ゆりかごから墓場まで)の環境影響(ライフサイクルアセスメント：LCA) がどの程度あるのかを調査し、その結果を明らかにした、タイプⅢ環境ラベルです。当社で行ったEPD (LCA) の信用性を高めるため及び企業の社会的信頼性の確保の観点から、世界に通用するタイプⅢ環境ラベルであるEPDに注目し、客観的かつ専門的な立場で審査を行うことのできる第三者機関に審査を依頼し、平成16年5月に国内PBメーカーでは初めてEPDの適合性の認証を受けました。EPDプログラムの開発元であるスウェーデン環境管理評議会においても当社のパーティクルボードがEPD製品として認証され、世界に向けてEPDが発信されています。



●パーティクルボードのライフサイクル影響評価及び廃棄物量推移

環境影響	単位	23年度	24年度	25年度
温室効果ガス	CO ₂ eq (kg)	4.68E+02	3.94E+02	3.86E+02
オゾン層破壊ガス	CFC-11 eq (kg)	6.68E-10	6.82E-10	6.69E-11
酸性雨	SO ₂ eq (kg)	7.14E+00	7.69E+00	7.04E+00
対流圏オゾン形成	ethene eq (kg)	3.06E+00	3.52E+00	3.59E+00
富栄養化	PO ₄ ³ eq (kg)	1.05E+00	1.12E+00	1.04E+00
廃棄物	(kg)	2.01E+00	2.15E+00	2.17E+00

※詳細は当社ウェブサイトをご覧ください。トップページの「EPD」バナーをクリック願います。

林地残材の原料化

首都圏近郊の山岳地域で行われている、皆伐および間伐の際に発生する製品不適合材、曲がり材、林地残材は今までその場に放置されていました。その林地残材を有効利用するため、都県市の森林課、各地森林組合との協力によりパーティクルボードの原料として当社が出来る限り引き受けています。



製品帰りの有効利用

パーティクルボードを建築現場に配送し、その現場から原料となる廃木材を回収することで、1台で2台分の作業を行うことができ、運搬効率の向上、並びにCO₂排出抑制の面から環境への負荷低減につながり、かつ、トータル運搬コストも抑えられます。一般貨物運送と産業廃棄物運搬・処理の許可を取得している当社の子会社であるティー・ビー・ロジスティックス(株)と連携して有効利用に取り組んでいます。



全国産業廃棄物連合会 第7回 全国大会 CO2マイナスプロジェクト

公益社団法人 全国産業廃棄物連合会において開催されたCO2マイナスプロジェクト全国大会において、当社は、生活部門 青年部協議会会長賞を受賞しました。今回のプロジェクトでは、日常行っているISO14001の活動を中心にEPD、PEFC等を取り組み事例としてエントリーしました。つまり、この受賞は、今大会のために経営資源を投入し新たな削減手段を策定して受賞したものではなく、当社の毎日の活動および環境に対する考え方が地球温暖化の改善に繋がると評価されたものです。



ハイブリッドカー（HV車）の導入（5台／7台中）

当社の移動手段は公共機関の利用が主ですが、自動車にて移動をせざるを得ない現場が多数あります。ガソリンの消費量を抑え環境影響を抑えるために、HV車の発売と同時に購入し、また、車両入替時に順次HV車へ更新しています。

算出条件	ガソリン消費量 (ℓ/年)	CO2排出量 (kg/年)	CO2削減量 (kg/年)
HV5台+他車2台	8,636	23,491	11,127
他車7台	12,727	34,618	

※算出仮定：HV平均燃費20km/ℓ、他車平均燃費11km/ℓ、年間走行距離2万km



東京ボード工業の社会への取り組み

東日本大震災

当社は東北地方と深い縁があります。社員の中に石巻市出身者も多く、平成20年3月まで当社にて単板工場を石巻市に所有し事業活動を行っていました。また、石巻市や宮古市の関連する企業から、当社パーティクルボード工場の立ち上げ時、数年に渡りご指導を頂き、現在も交流が続いています。

このような背景もあり、「復興に何か協力できないか」との思いから当社でできること、社員としてできることを実施してきました。

● 震災廃棄物の受入

当社は、いち早く放射線探知機を導入し、全て計測し、震災廃棄物（廃木材のみ）を安全にリサイクルすることで、国の進める広域処理に参加させて頂いております。災害復興の最大の障害が災害廃棄物です。復興に向けて一步一步進んでいる被災地の皆様の力になりたい。その一言に尽きます。



● 支援物資の配送

震災直後、生活必需品不足の声を聞き、当社で独自に食料、水、衣類、布団等を準備し、当社グループのティー・ビー・ロジスティックス株式会社、TB関西物流株式会社のトラックにて物資の補給活動を行いました。



● 募金活動

当社の役員・社員・取引先に声を掛け、募金活動を行い、被災した関係会社社員の方々に、応援のお手紙と各1万円の御見舞金を、また、震災孤児等への募金として宮古市・大船渡市・石巻市に計500万円、2年間で約1000万円をお送りすることが出来ました。当社では、引き続き石巻の震災孤児が、高校を卒業するまで、あと13年に渡って支援を続けていくことを目標としております。

● 採用活動

被災した関連企業では、震災の傷跡が深く、社員の半数を解雇せざるを得ない企業、再建を断念し廃業せざるをえない企業がありました。お世話になった地域・企業へ少しでも恩返しを、との願いから、当社への入社を希望する4名を被災地域より正社員として採用しました。

● 東日本大震災被災住民子女奨学金寄付活動

被災地では、両親が震災にて亡くなり（または行方不明）、通学できない子供達に学校へ通うことができるよう、被災住民子女奨学金寄付活動が行われています。当社もその意に賛同し、寄付活動を行いました。

法人の森

当社にて富津市にある法人の森に杉の木を植樹しました。この森の管理のため、社員の希望を募り、下草の草刈りを行いました。



ゴミゼロ活動

新木場で事業を営んでいる企業として、街の美化促進のため、社員および家族に声を掛け、新木場駅から工場周辺にかけ、一斉ゴミ拾い活動を実施しました。



環境展

当社は、2016NEW環境展 東京会場へ出展しました。循環型社会構築のため、マテリアルリサイクルと環境負荷の低減を啓発し、排出事業者の皆様と協力関係を築くため、1999年より環境展の前身である廃棄物処理展に出展し、以降、継続して毎年出展しています。



■ 会社概要(平成28年3月現在)

会社名	東京ボード工業 株式会社	営業所	本社 〒136-0082 東京都江東区新木場2-11-1 Tel. 03-3522-4138 Fax. 03-3522-4137 新木場リサイクリング工場 〒136-0082 東京都江東区新木場2-12-5 Tel. 03-3522-1522 Fax. 03-3522-1525 合板・加工工場 〒136-0082 東京都江東区新木場2-12-3 Tel. 03-3522-4158 Fax. 03-3522-4157 埼玉工場 〒340-0835 埼玉県八潮市浮塚100 Tel. 048-996-4541 Fax. 048-996-4562
設立	昭和22年5月		
資本金	2億2100万円		
従業員数(連結)	206名		
代表者	代表取締役社長 井上 弘之		
決算期	3月		
取引銀行	みずほ銀行 内幸町営業部 三菱東京UFJ銀行 東京営業部 三井住友銀行 葛西法人営業部	グループ会社	ティー・ビー・ロジスティクス株式会社 TB関西物流株式会社 株式会社カリブ 横浜エコロジー株式会社

■ 許認可等一覧

●JIS (パーティクルボード) ●JAS (合板) ●ISO 14001 (リサイクリング工場および本社) ●ISO 9001 (パーティクルボードおよび木材用接着剤) ●PEFC-CoC (パーティクルボード、単板張りパーティクルボードおよび木材チップ) ●EPD (パーティクルボード:18Mタイプ) ●産業廃棄物処理業 ●一般廃棄物処理業 ●一般廃棄物収集運搬業 ●産廃エキスパート